

令和6年度職員採用試験（大学卒業程度）
建築 専門記述試験（6.6.16）

＝課 題＝

○カーボンニュートラル、脱炭素社会に向けた住宅のあり方について

近年、気候変動の影響と考えられる自然災害が頻発・激甚化し、住まいや地域の安全・安心の確保に向けた取組が一層求められています。一方で、気候変動問題について、日本政府は令和2年10月に「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言^{※1}し、その対策が急務となるなど、社会経済は大きな変革の時期を迎えています。

住宅等の脱炭素化に向けては、関係法令の改正（省エネ対策の加速化等）やLCCM住宅^{※2}やZEH^{※3}等の普及などが進められています。

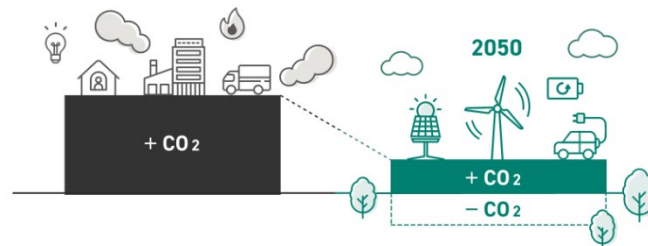
そこで、カーボンニュートラル、脱炭素社会に向けた住宅のあり方について、今後進めるべき取組など、あなたの考えを記述してください。

※ 1

政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※ から、植林、森林管理などによる「吸収量」※ を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。※人為的なもの

カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。



資料：脱炭素ポータル（環境省）

※ 2

LCCM（エルシーシーエム）（ライフ・サイクル・カーボン・マイナス）住宅とは、建設時、運用時、廃棄時において出来るだけ省CO₂に取り組み、さらに太陽光発電などを利用した再生可能エネルギーの創出により、住宅建設時のCO₂排出量も含めライフサイクルを通じてのCO₂の収支をマイナスにする住宅のことです。

※ 3

ZEH（ゼッチ）（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）とは「外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅」のことです。



資料：国土交通省